

## 令和7年度 特別記念講演

演題：私の研究 -艱難辛苦を乗り越えて-

講師：(公社) 山梨科学アカデミー 名誉会長 大村智 氏

講演内容：

山梨大学卒業後、5年間夜間高校の教員を務めながら、有機化学の研鑽を重ねた後、研究者への道を歩むことにした。

北里研究所の研究者になり、研究室を持つことができたが、これからという時に研究室の閉鎖を命ぜられた。やむを得ず、独立採算を目指して研究資金を稼ぎながら研究者の育成を図り、研究室を維持して研究を続けた。

やがて、副所長を命ぜられ、またしても苦難を伴う任務を果たしながらも、多くの研究者と共同研究を進めた。

この間、悪性リンパ腫を患うなど、幾多の病を克服しながら研究を続け、有用なスタウロスポリン、ラクタシスチン、およびエバーメクチンなどの微生物代謝産物を世に送り出すなどの成果を挙げることができた。

これらは子供の頃の農業の手伝いや高校生・大学生時代のスキーマの長距離競技で鍛えた“百折不撓”の精神力に助けられたと思っている。

## 大村智博士略歴

1935 年山梨県韮崎市生まれ

北里大学特別栄誉教授、日本学士院会員、米国 Wesleyan 大学名誉教授、(学)女子美術大学名誉理事長

微生物の生産する有用な新規天然有機化合物の発見を目指して独創的な研究を推進し、520 種類余の新しい化合物を発見。その内、26 種が医薬、動物薬、生化学研究用試薬、農薬として広く使われ、感染症の治療・撲滅、生命現象の解明、食糧の増産などに貢献している。特に抗寄生虫薬イベルメクチンは熱帯病のオンコセルカ症およびリンパ系フィラリア症の他、糞線虫症、疥癬の予防・治療薬などとして年間 7 億人余に使われている。

2015 年、文化勲章、ノーベル生理学・医学賞を受賞。郷里の山梨県韮崎市に韮崎大村美術館を建設し、収集した 4,000 点余の絵画、陶器及び彫刻等と共に市に寄贈した。